

高まる不安 その3

夫の定年に年金不安、 どうなる？収支のバランス

子どもにはまだお金がかかるけれど、そろそろ、お金のことも含めた自分たちの将来設計を…と考え始めるアラフィフ世代。どんなビジョンを持ってどんな不安があるかを探った。

末子はまだ学生、が6割 有職主婦が専業主婦を上回る

将来のマネープランについて、末子が高校生より上のアラフィフ（45歳～54歳）148人に聞いた。

末子のステージは、社会人が4分の1強。短大・大学・大学院生は6割（グラフ1）。夫は87.2%がフルタイム勤務ともちろんまだ現役で、本人の働き方は61.5%が有職（グラフ2）。フルタイム勤務は少ないものの、パート・アルバイトが専業主婦を上回っており、子育てから手が離れつつある様子が見てとれる。

アラフィフの世帯年収と家計の余裕度は右のグラフの通りだが（グラフ3、4）、50代後半は、世帯年収がやや低めになるものの、家計の余裕度は「やや余裕がある」がアラフィフを上回るようになる。

5年後予想、夫の収入が減り 医療費や親の介護費用の負担に不安が

夫の収入を5年前と比較すると「変わらない」43.2%、「減った」32.4%（グラフ5）。本人の収入はパート・アルバイトが多いこともあり「変わらない」が59.5%と最も多い。

5年後の収入と支出を予想してもらった（グラフ6、7）。収入は「減る」が52.7%と半数超。年代別で見ると40代後半と50代前半との開きが大きい。自由記述で挙げてもらった理由では、夫の収入減がトップ。50代前半は、高齢者減給制度が目前になってくる世代だ。

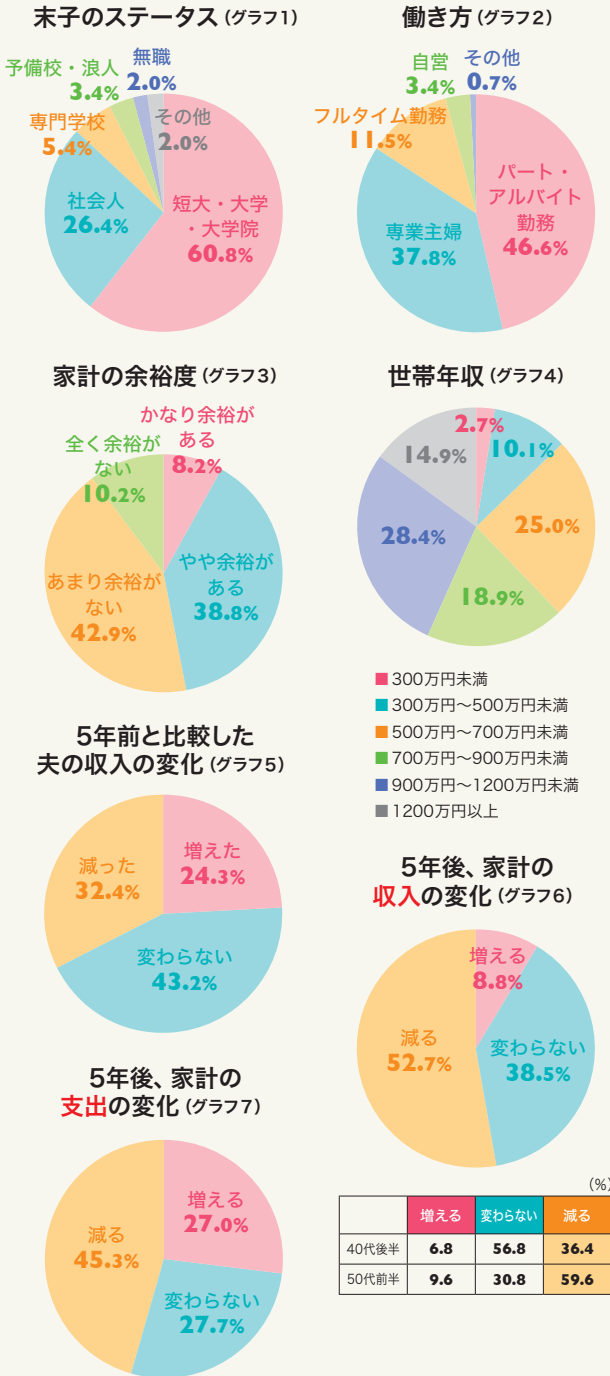
一方、5年後の支出は「減る」が45.3%いるものの、「変わらない」「増える」は27%台でほぼ同率。支出が「減る」と回答した人の理由の多くは「教育費がなくなること」で、50代前半が49.0%と最も多い。支出が「増える」理由には「医療費」「親の高齢化」を挙げる声が多い。50代前半は、今後の収入が減ることを予想しながらも教育費からの解放を実感しており、収入と支出のバランスを考え直す世代といえる。

..... 5年後の支出

＼ 増えそう /

＼ 減りそう /

- ・親の高齢化により、実家などに行き来する頻度が多くなる（54歳 / 福岡）
 - ・親の介護費用負担の可能性、孫の誕生（52歳 / 大阪）
 - ・医療費や住宅関連の費用がかかりそう（47歳 / 兵庫）
- ・子ども達が独立している可能性が高い（52歳 / 広島）
 - ・子どもが結婚して家を出れば減るかもしれない（53歳 / 静岡）
 - ・住宅ローンがあと2年で終わる（52歳 / 大阪）



【調査概要】
調査期間 2015年11月11日～15日
調査対象 読者組織「リビングパートナー」へのWeb調査
集計数 45歳～49歳=44人、50歳～54歳=104人
※各データは小数点以下第2位を四捨五入したため、合計が100%にならないことがある

今は“子どものため”が一番だけど 5年後は、自分自身のために使いたい！

家計配分の現在と5年後予想を、ターゲット（誰のためか）と目的別に聞いてみた。

現在は、全体を10とした内、「子どものため」が平均3.8とトップ。目的も「生活費」が平均5.9と半分以上を占めている。

5年後予想は、「子どものため」がぐっと減った分、「自分のため」「親のため」「孫のため」が伸びている。「夫のため」の伸び率が一番低く0.1止まり。「自分のため」がプラス0.6と最も伸びており、ようやく“自分のこと”に目を向けるようになる。目的は、日々の「生活費」から「将来」に比重を置こうとしている傾向が顕著だ。

アラフィフのマネープラン 分岐のポイントは、子どもの教育費

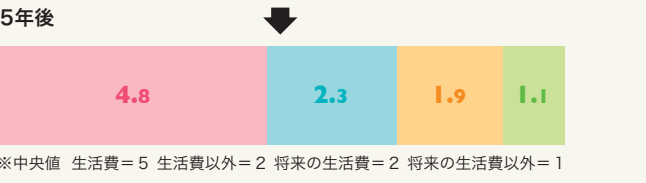
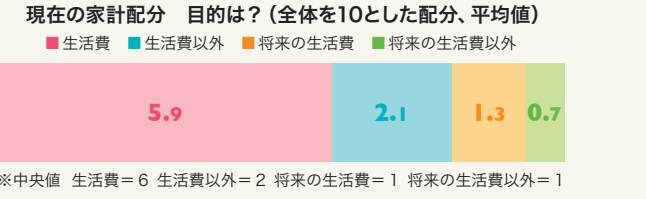
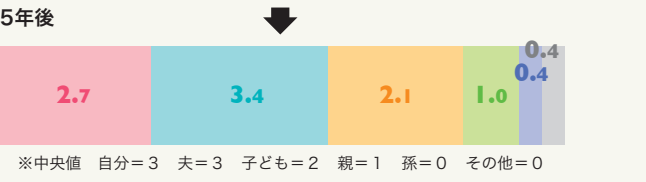
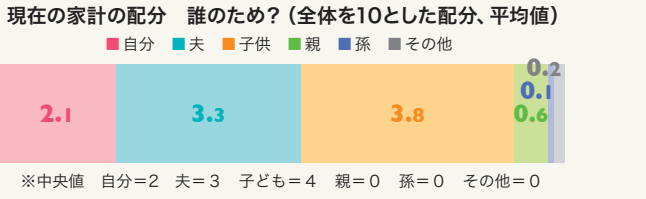
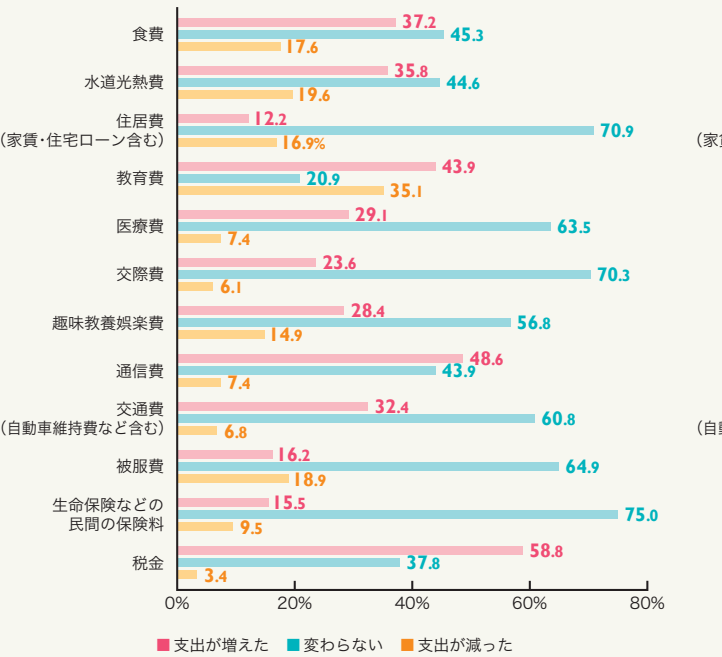
家計の支出の変化を、12の費目を挙げて具体的に聞いてみた（グラフ9、10）。

5年前と比較して支出が大きく増えているのは、「食費」「水道光熱費」「通信費」「交通費」。大きく減った費目はなく、消費税増税、物価上昇の影響がはっきりと出ている。

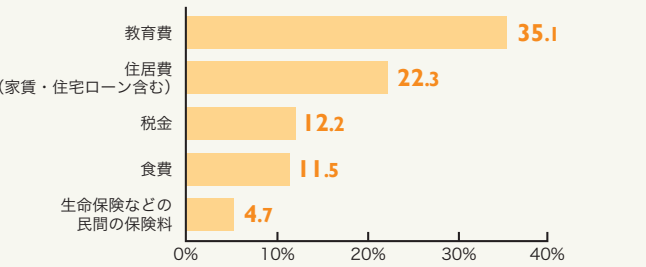
そんな中で特徴的なのは「教育費」。支出が増えた43.9%、支出が減った35.1%と、増減それぞれに2つの山がある唯一の費目だ。現在、家計の中で1番負担になっている費目でも、教育費はトップ（グラフ8）。大学進学、卒業、就職と、子どものステージがどこなのかによってアラフィフの経済的負担は大きく左右される。

各費目への支出の5年後予想を見ると、前述の負担構成割合と同じように子どものための教育費がぐっと減り、自分たちの趣味教養娯楽費、交際費が少し増えると予想している。

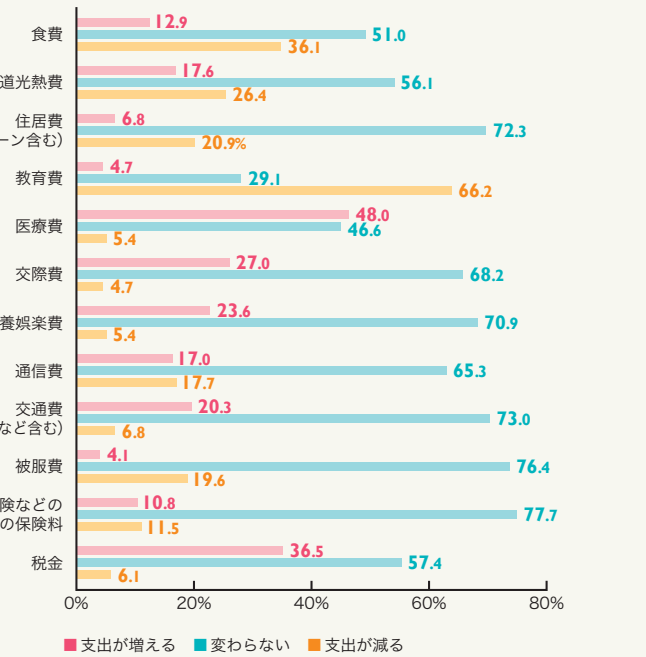
5年前と現在を比較して、費目別支出の変化 (グラフ9)



現在、家計の中で1番負担になっている費目、上位5項目 (グラフ8)



5年後の費目別支出の予想 (グラフ10)

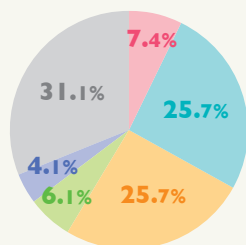


リタイア時の貯蓄・資産、不十分が77.0% 貯金が足りないのに加え、年金への不安も

夫婦二人での老後生活の資金ビジョンについて聞いてみた。リタイア時に必要とされる貯蓄・資産額はライフスタイルによって違いがあり諸説あるが、3000万円程度、5000万円程度とする人がそれぞれ25.7%と4分の1ずつ。その一方で「いくら必要なかわからない」という人も31.1%（グラフ11）。

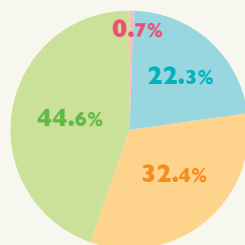
老後の生活を見据えたときに貯蓄・資産の充足度は、十分、だいたい十分が23.0%。やや不十分、全く不十分が77.0%にものぼる（グラフ12）。不十分と思う理由は、貯金が足りないがトップだが、年金不安、社会情勢不安も5割を超える（グラフ13）。

夫婦二人の老後生活を見据えたときに
必要だと思う貯蓄・資産額（グラフ11）



■ 1000万円 ■ 3000万円
■ 5000万円 ■ 7000万円
■ 1億円以上 ■ いくら必要なかわからない

夫婦二人の老後生活を見据えたとき、
貯蓄・資産の充足度（グラフ12）



■ 充分である
■ だいたい充分である
■ やや不十分である
■ 全く不十分である

老後の資金対策は貯蓄がトップ 6割以上が夫婦で話し合っていない

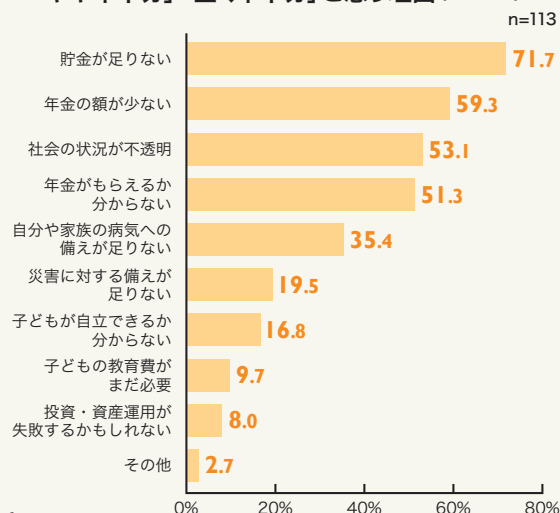
老後資金のためにしている対策は、最も多いのが貯蓄で52.0%。投資関連は10%台、保険関連でも30%を切る。今後考えたい対策でも貯蓄がトップで50.7%。また家族の人数が減ることもあって、住まいの見直しが20.9%（グラフ14）。リタイア後の家計については61.5%が夫婦で話し合っていないと回答している。

まとめ

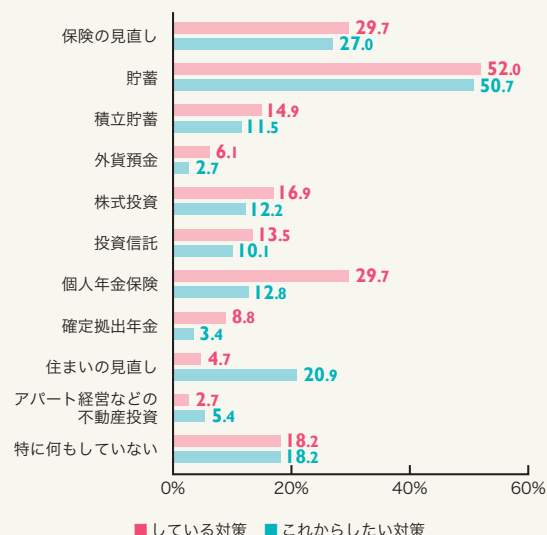
今後のビジョンが描けていないアラフィフ 個々のケースに応じた 情報提供サービスが求められている

アラフィフは、教育費負担がなくなれば（子どもが独立すれば）やっと自分のために使える！という夢も出てくる一方で、将来を思うと老後資金がどのくらいあればいい？ 年金の額は？ 受給開始はいつから？などの不安がいっぱい。具体的な資金計画や生活ビジョンが描けず、夫婦での話し合いもしていないのが現状で、結局は貯蓄という守りに入ってしまうがちだ。それぞれの家庭の事情やライフスタイルによって大きく異なるマネープラン。現状からリタイア後までを安心して相談できるサービスが求められているのではないだろうか。

「やや不十分」「全く不十分」と思う理由（グラフ13）



夫婦二人の老後生活資金のために、
している対策／これからしたい対策（グラフ14）



■ している対策 ■ これからしたい対策

老後資金への不安～フリーアンサーから

- ・60歳からの収入がまったく考えられない。このままだと下流老人になりかねない。とても不安である。仕事をしたいけど雇ってもらえないし、どうしたらいいかわからない。（50歳/神奈川）
- ・実際にどのぐらいの生活費が毎月かかるのか、想像が付きません。年金額もわからないので、計画の立て方がわかりません。（49歳/千葉）
- ・預貯金はローリスクローリターンであるが、今後はハイリスクハイリターンの投資信託なども考慮しなければいけないのか。（52歳/大阪）
- ・リタイア時に必要な貯蓄は2000万円とも3000万円とも聞きますが、本当のところどれくらい必要ですか。（54歳/京都）
- ・平均寿命が長くなってきているので、老後一体いくら必要なのかから不安。（51歳/埼玉）